

がん専門修練医 コース	対象者	原則として以下のいずれかに該当する一定レベル以上の経験と実績を有する医師を対象とする ・当センターのレジデント修了者 ・がん薬物療法専門医（関連するサブスペシャリティ領域専門医）等取得済みまたは取得見込み ・上記と同等の能力を有する医師
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医 ・研究：自ら研究を計画、実施 / 国際学会での筆頭演者、英文論文の筆頭著者 ・教育：レジデントの教育
	研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は乳腺・腫瘍内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択（最大12か月） ※乳腺・腫瘍内科での臨床研究のほか、先端医療開発センター等での基礎的研究（トランスレーショナルリサーチ）にも従事できます ※自らの再診外来で診療が可能（指導医がバックアップ）
	研修の特色	・腫瘍内科医として自立して診療にあたりるとともに、自ら研究を計画・実施する能力を身につけることを目標とします ・研究指導は上級医がメンターとして担当し、研究の計画・実施をサポートします ・臨床研究のほか基礎的研究（トランスレーショナルリサーチ）も経験できます ・レジデントの教育を通じて教育者としての技能を身につけられます ・プログラムの最終年には ASCO など国際学会に派遣します
レジデント 3年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医（基本領域専門医）または認定医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医 ・研究：上級医による指導のもと研究を計画、実施 / 国際学会での筆頭演者、英文論文の筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1.5年以上乳腺・腫瘍内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択（最大18か月） ※呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、血液腫瘍科、頭頸部内科、先端医療科、病理等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※6か月まで先端医療開発センター、中央病院など東病院以外での研修が認められる ※日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う（主として新規患者の診療を上級医とともに行う）
	研修の特色	・臓器横断的ながん薬物療法の経験を通じて真の腫瘍内科医を目指すコースです。研究指導は上級医がメンターとして担当し、国際学会での発表や英文論文執筆等の機会を提供します ・プログラムの最終年には ASCO など国際学会に派遣します
レジデント 2年コース	対象者	原則として以下の全ての条件を満たした医師を対象とする ・採用時に医師免許取得後3年目以降 ・総合内科専門医（基本領域専門医）または認定医取得済みもしくは取得見込み
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医 ・研究：上級医による指導のもと研究を計画、実施 / 国際学会での筆頭演者、英文論文の筆頭著者
	研修内容	研修期間のうち1年以上乳腺・腫瘍内科に在籍し、それ以外の期間は自由選択（最大12か月） ※呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、血液腫瘍科、頭頸部内科、先端医療科、病理等の希望診療科も研修可能（1診療科3か月を原則とする） ※6か月まで先端医療開発センター、中央病院など東病院以外での研修が認められる ※日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修を行う（主として新規患者の診療を上級医とともに行う）
	研修の特色	・臓器横断的ながん薬物療法の経験を通じて真の腫瘍内科医を目指すコースです。研究指導は上級医がメンターとして担当し、国際学会での発表や英文論文執筆等の機会を提供します ・プログラムの最終年には ASCO など国際学会に派遣します

連携大学院 コース	対象者	レジデント3年コースまたは2年コースに準ずる
	研修目標	・専門医取得：がん薬物療法専門医 ・学位取得：社会人大学院制度（順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大） ・研究：国際学会での筆頭演者、英文論文の筆頭著者
	研修内容	3年もしくは2年のレジデントコースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです ※がん専門修練医への採用には、再度選考試験があり ※前半の3年もしくは2年の研修期間は、当該コースの内容に準じる ※後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じる 連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます
	研修の特色	・がん薬物療法専門医と同時に、学位取得を目指すコースです。連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます ・国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です ・将来的にがんセンター、大学等の研究機関でキャリアを積みたい方に最適です
レジデント 短期コース	対象者	原則として総合内科専門医（基本領域専門医）取得済みもしくは取得見込みの医師を対象とする
	研修目標	短期間に臓器横断的ながん薬物療法を経験し、腫瘍内科学のエッセンスを体得することを目標とする
	研修内容	乳腺・腫瘍内科に、最短3か月から最長2年未満の期間在籍する ※全体の在籍期間が1年以上の場合、他の診療科（消化管内科、肝胆膵内科、血液腫瘍科、先端医療科、呼吸器外科、病理科等）と組み合わせた研修も可能（最大6か月、1診療科3か月）
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です
専攻医 コース	対象者	基本領域専門医取得のため研修中の専攻医を対象としたコース 下記の全ての条件を満たした医師が対象となる ・医学部卒業後3年目以降 ・専門医制度の連携施設として国立がん研究センター東病院を選択した専攻医
	研修目標	短期間の研修で、基本的ながんの診療経験を積むことを目標とする
	研修内容	・国立がん研究センター東病院に、3か月単位、最長2年間在籍します ・希望に応じて関連各科等の診療科を、各科最短3か月単位でローテーションします ・研修の特色 研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です
	研修の特色	研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です
乳腺・腫瘍内科 乳がんエキスパート コース 6ヶ月、1年	対象者	乳がん治療の専門家を目指す医師のためのコース ・内科学会総合内科専門医または外科専門医を取得済みもしくは取得見込みの医師
	研修目標	短期間の研修で、乳がんの薬物療法、外科療法、放射線療法、病理を包括的に学ぶことを目標とする
	研修内容	6か月または1年のコース ※6ヶ月の場合、乳腺・腫瘍内科を3ヶ月間、乳腺外科を3ヶ月間ローテーションする ※1年の場合は、乳腺・腫瘍内科、乳腺外科、をそれぞれ3ヶ月以上と、希望に応じて放射線治療科、病理・臨床検査科をそれぞれ3ヶ月間以上ローテーションすることも可
	研修の特色	乳がんの専門家としてキャリアを積みたい方に最適なコースです
泌尿器がんエキ スパートコース 6ヶ月、1年	対象者	泌尿器がん治療の専門家を目指す医師のためのコース ・内科学会総合内科専門医または泌尿器科専門医を取得済みもしくは取得見込みの医師
	研修目標	短期間の研修で、泌尿器がんの薬物療法、外科療法、放射線療法、病理を包括的に学ぶことを目標とする
	研修内容	6か月または1年のコース ※6ヶ月の場合、乳腺・腫瘍内科を3ヶ月間、泌尿器・後腹膜腫瘍科を3ヶ月間ローテーションする ※1年の場合は、乳腺・腫瘍内科、泌尿器・後腹膜腫瘍科をそれぞれ3ヶ月以上と、希望に応じて放射線治療科、病理・臨床検査科をそれぞれ3ヶ月間以上ローテーションすることも可
	研修の特色	・泌尿器がんの専門家としてキャリアを積みたい方に最適なコースです ・研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です
婦人科がんエキ スパートコース 6ヶ月、1年	対象者	婦人科がん治療の専門家を目指す医師のためのコース ・内科学会総合内科専門医または産婦人科専門医を取得済みもしくは取得見込みの医師
	研修目標	短期間の研修で、婦人科がんの薬物療法、外科療法、放射線療法、病理を包括的に学ぶことを目標とする
	研修内容	6か月または1年のコース ※6ヶ月の場合、乳腺・腫瘍内科を3ヶ月間、婦人科を3ヶ月間ローテーションします ※1年の場合は、乳腺・腫瘍内科、婦人科、をそれぞれ3ヶ月以上と、希望に応じて放射線治療科、病理・臨床検査科をそれぞれ3ヶ月間以上ローテーションすることも可
	研修の特色	・婦人科がんの専門家としてキャリアを積みたい方に最適なコースです ・研修者のニーズにあわせて柔軟な研修期間設定が可能です